

# 平成26年3月期第2四半期 決算説明会

平成25年11月13日



大林組

## 免責事項

当資料に記述されている業績予想並びに将来予測は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため実際の業績は、様々な要因の変化により、記述されている将来の見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

# 平成26年3月期第2四半期 決算説明

---



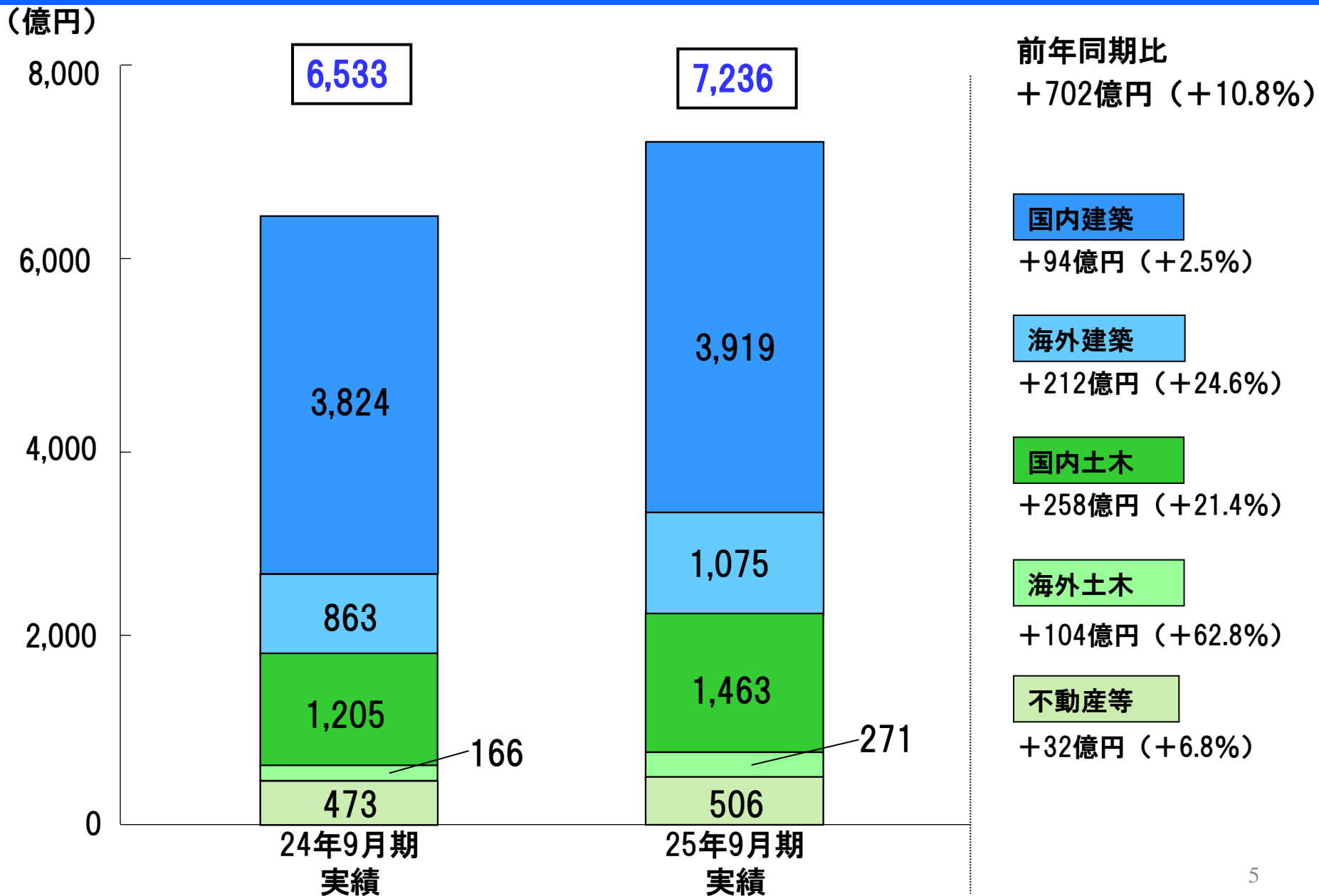
時をつくる ところで創る

大林組

(単位:億円)

	24年9月期	25年9月期	増 減	増減率
売 上 高	6,533	7,236	702	10.8%
売上総利益	504	478	△26	△5.2%
営業利益	119	84	△35	△29.8%
経常利益	122	120	△2	△1.9%
四半期純利益	56	63	6	11.0%

# 【連結】セグメント売上高



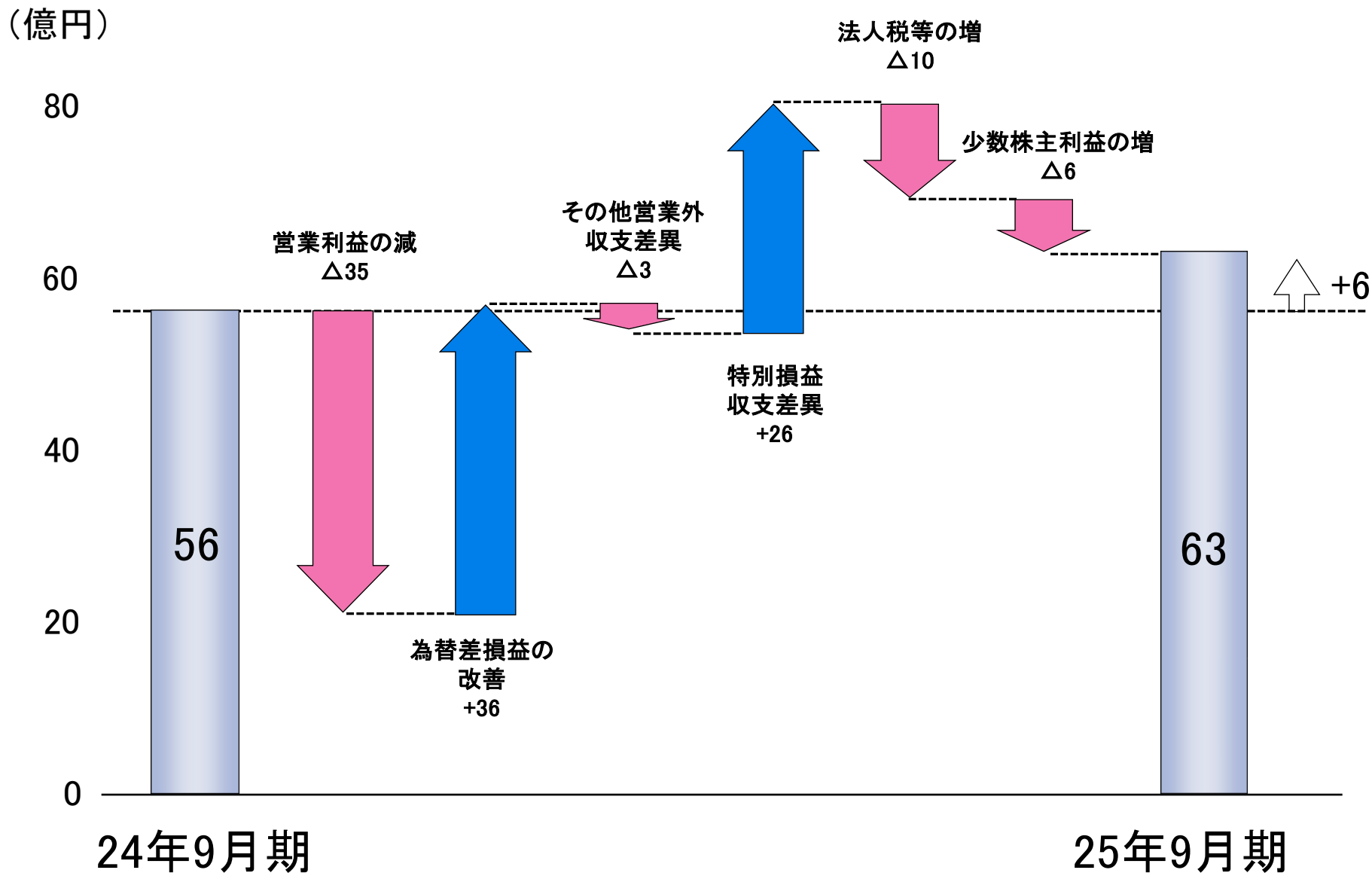
# 【連結】セグメント営業利益

OBAYASHI CORPORATION

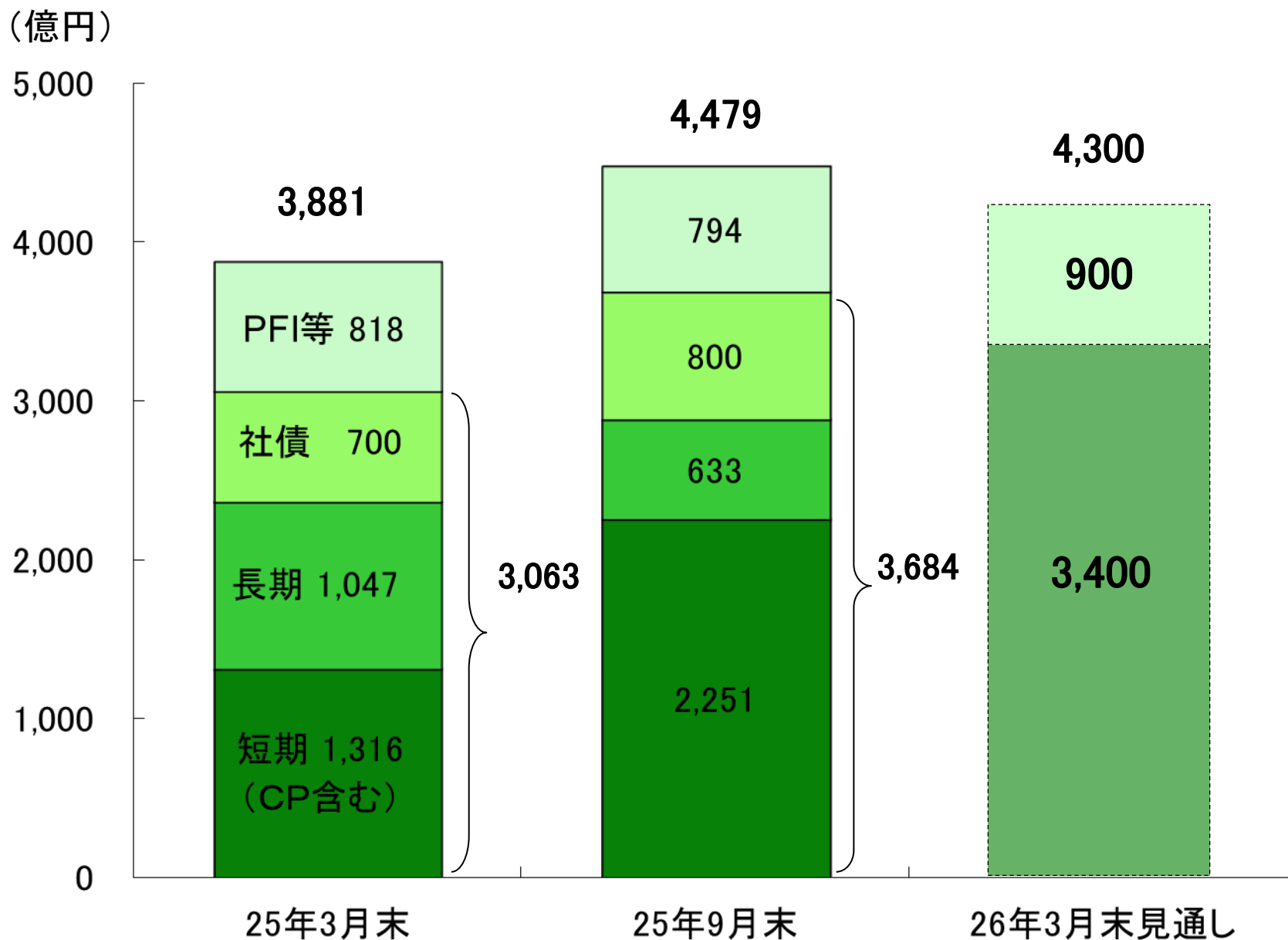
(単位:億円)

		24年9月期		25年9月期		増 減
		利益率		利益率		
建設事業計	国内建築	1.1%	42	△0.8%	△30	△72
	海外建築	2.0%	17	2.3%	25	8
	国内土木	2.0%	23	0.9%	13	△10
	海外土木	△6.7%	△11	△1.4%	△3	7
建設事業計		1.2%	72	0.1%	4	△68
不動産等		9.9%	46	15.7%	79	32
合計		1.8%	119	1.2%	84	△35

# 【連結】 四半期純利益の増減要因



# 【連結】有利子負債の推移





# 【連結】 キャッシュ・フロー

(単位:億円)

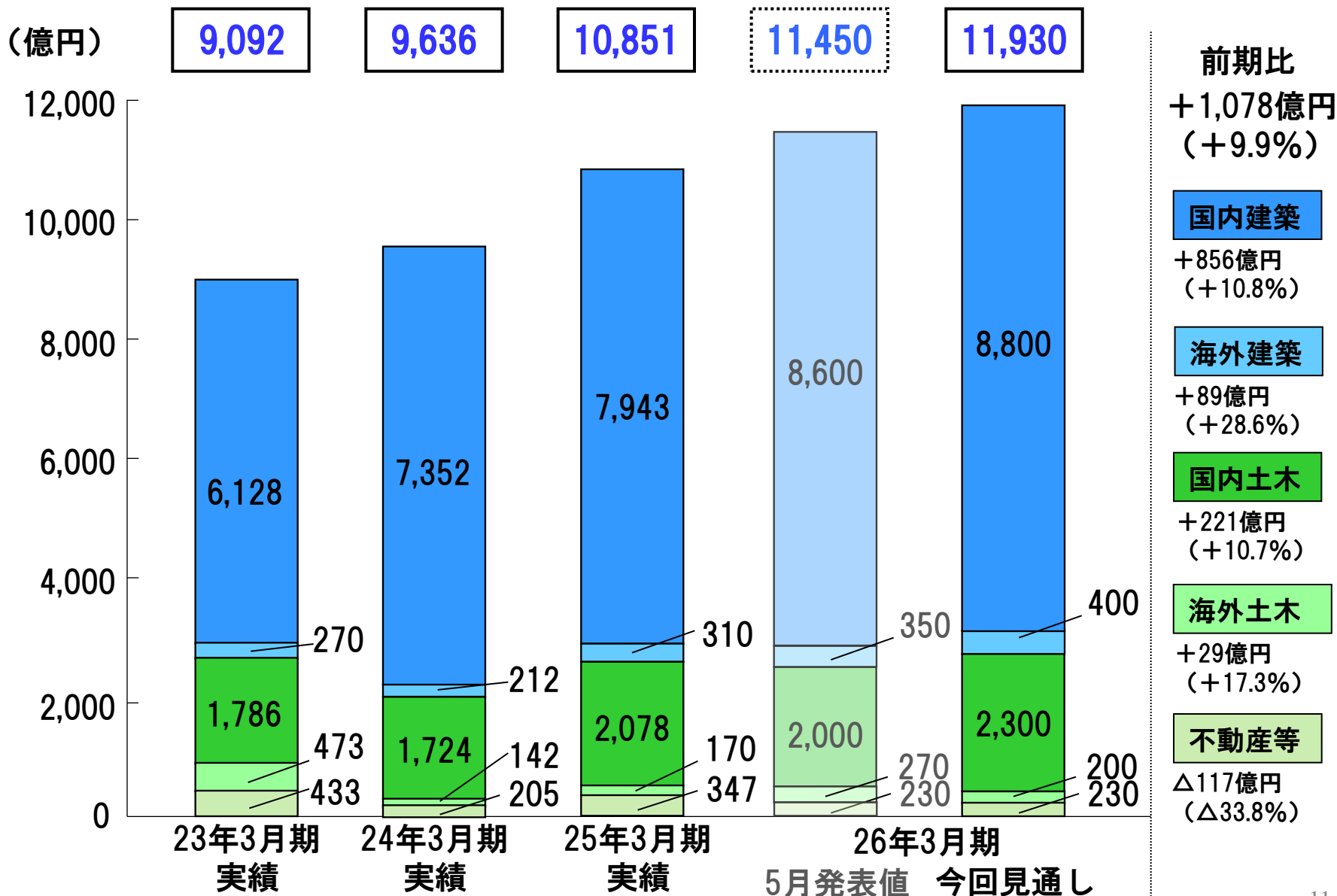
	24年9月期	25年9月期	増 減
営業キャッシュ・フロー	36	△259	△295
投資キャッシュ・フロー	△268	△333	△64
財務キャッシュ・フロー	△73	537	611
現金及び現金同等物の 増 減 額	△307	△27	279
現金及び現金同等物の 期 末 残 高	909	969	59

# 【連結】平成26年3月期業績見通しの概要

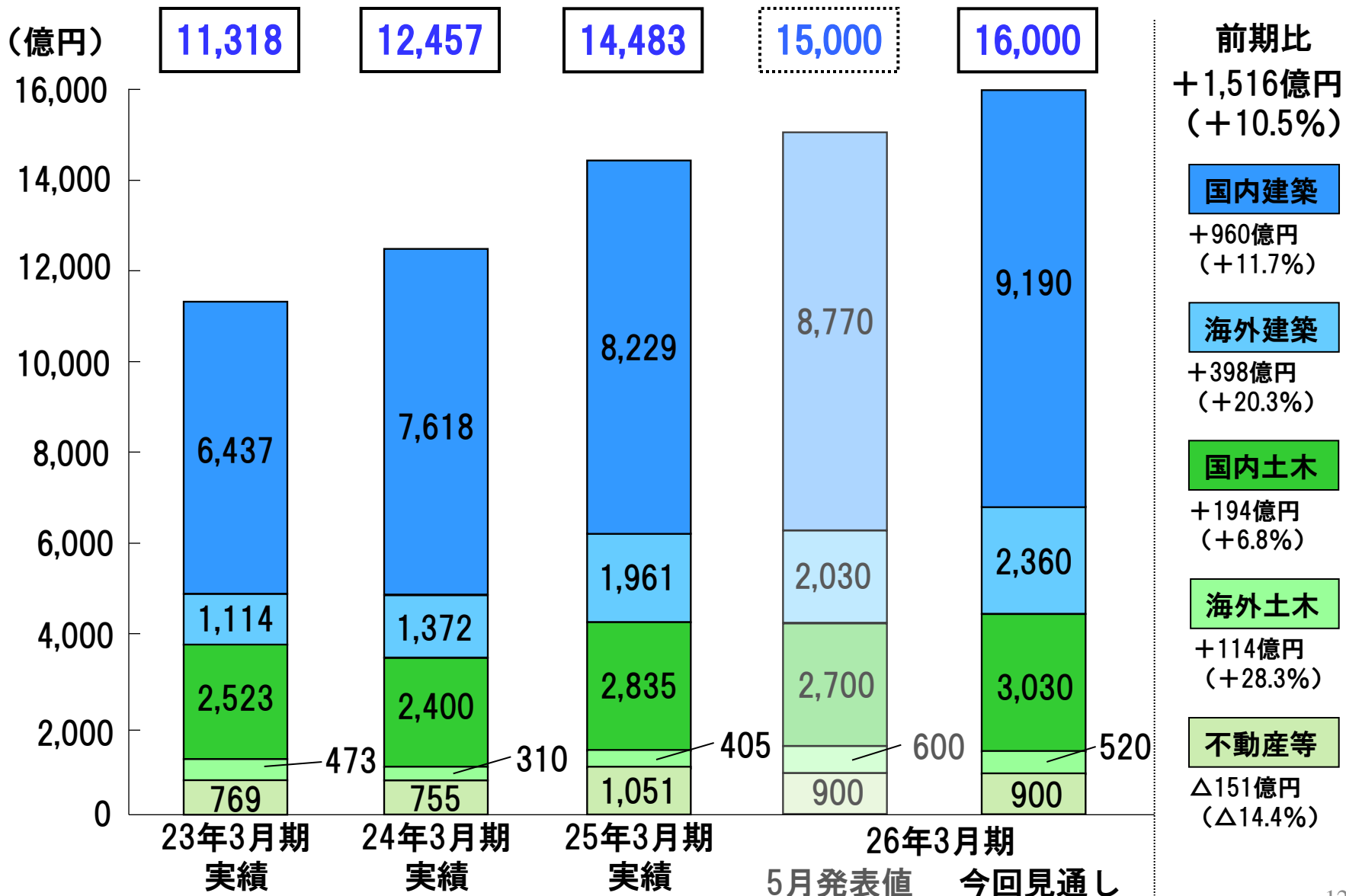
(単位:億円)

	25年3月期 実績	26年3月期 見通し	増 減	増減率	26年3月期 5月発表値
売 上 高	14,483	16,000	1,516	10.5%	15,000
売上総利益	1,146	1,045	△101	△8.9%	1,040
営業利益	351	240	△111	△31.7%	260
経常利益	446	290	△156	△35.1%	300
当期純利益	131	140	8	6.1%	140

# 【個別】通期売上高の見通し



# 【連結】通期売上高の見通し

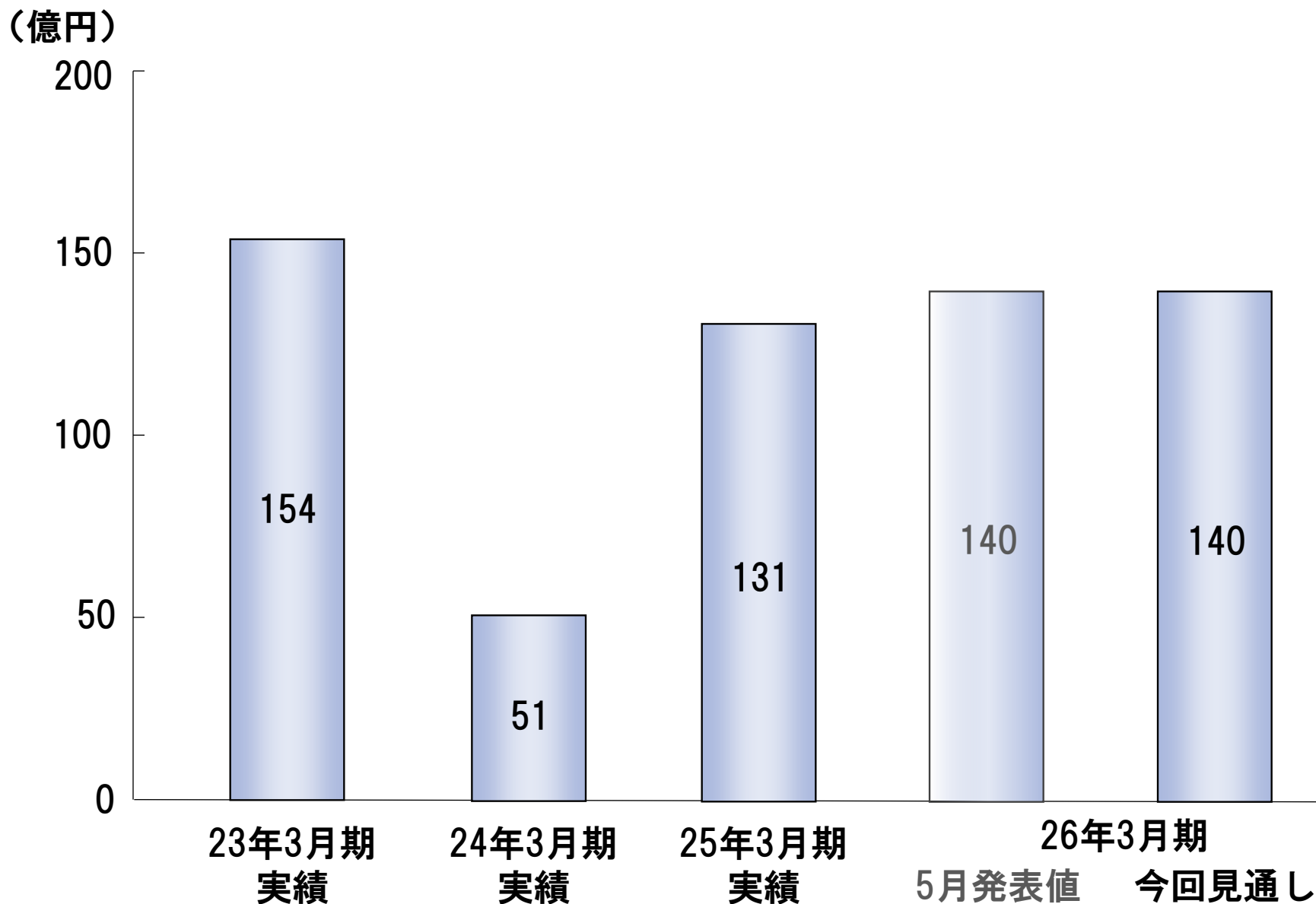


# 【連結】セグメント営業利益の見通し

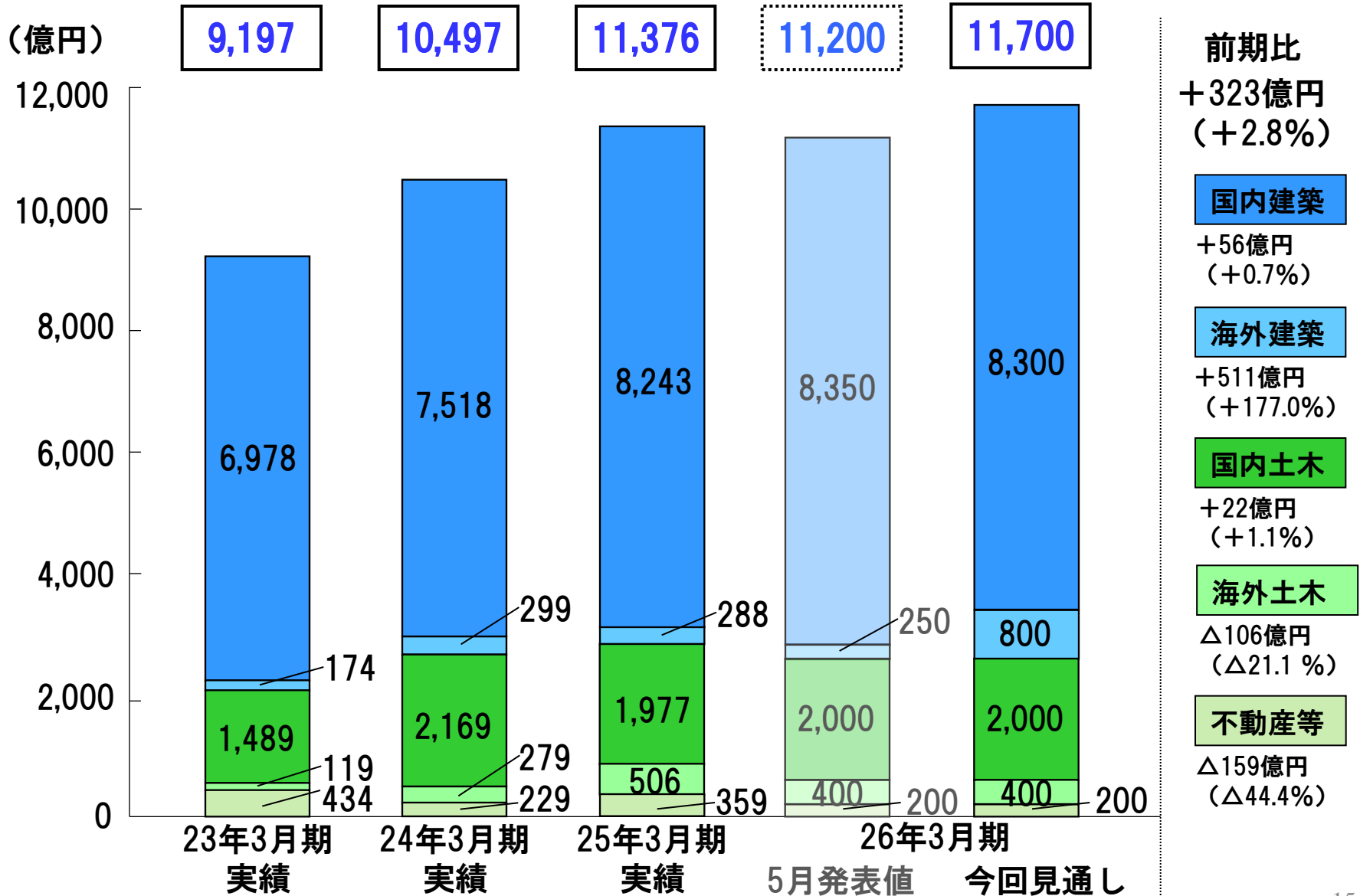
(単位:億円)

		25年3月期		26年3月期		増 減
		利益率		利益率		
建設事業計	国内建築	1.3%	110	0.4%	35	△75
	海外建築	3.3%	64	1.7%	40	△24
	国内土木	3.0%	84	2.6%	80	△4
	海外土木	△4.3%	△17	△4.8%	△25	△7
建設事業計		1.8%	241	0.9%	130	△111
不動産等		10.5%	109	12.2%	110	0
合計		2.4%	351	1.5%	240	△111

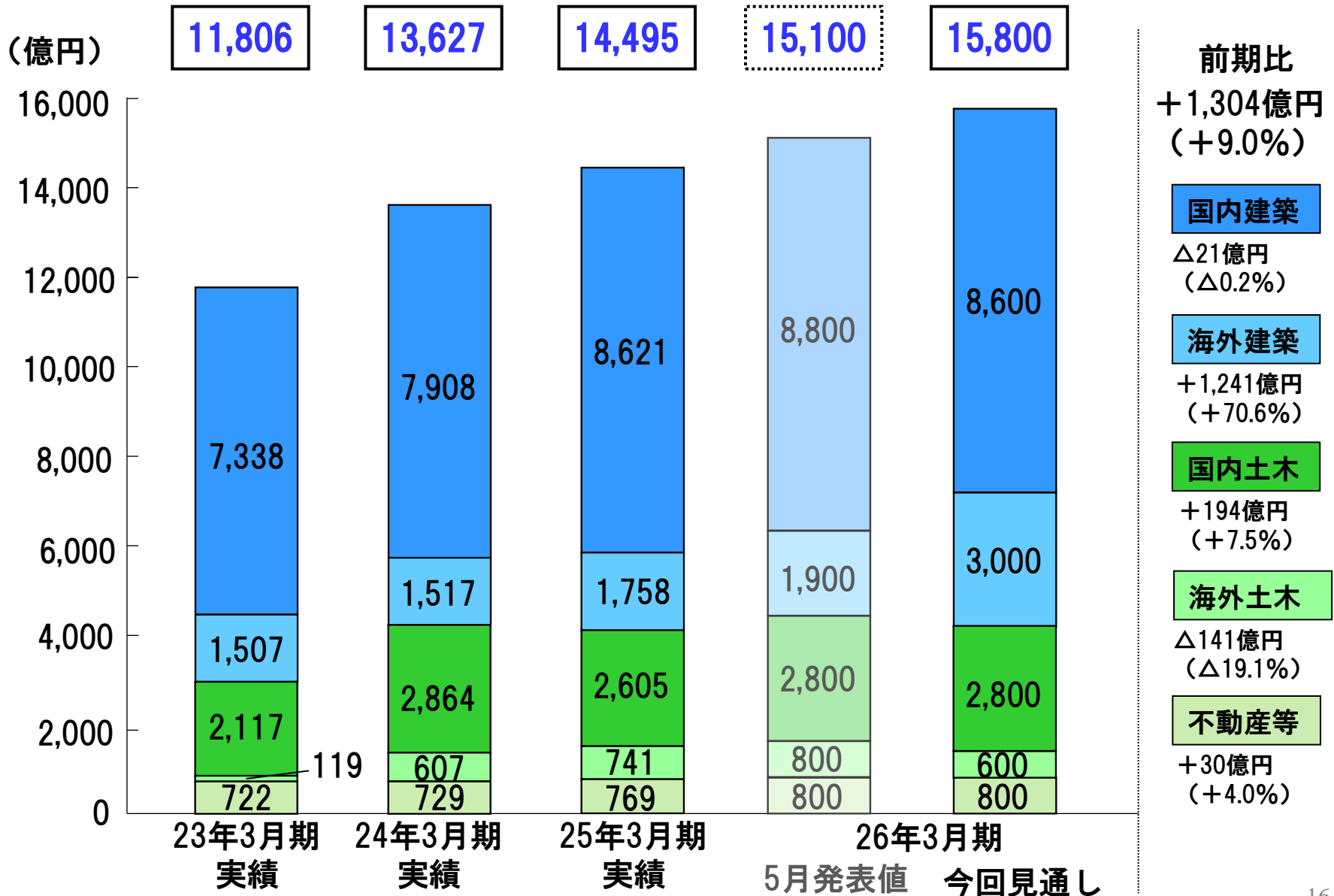
# 【連結】 当期純利益の見通し



# 【個別】通期受注高の見通し



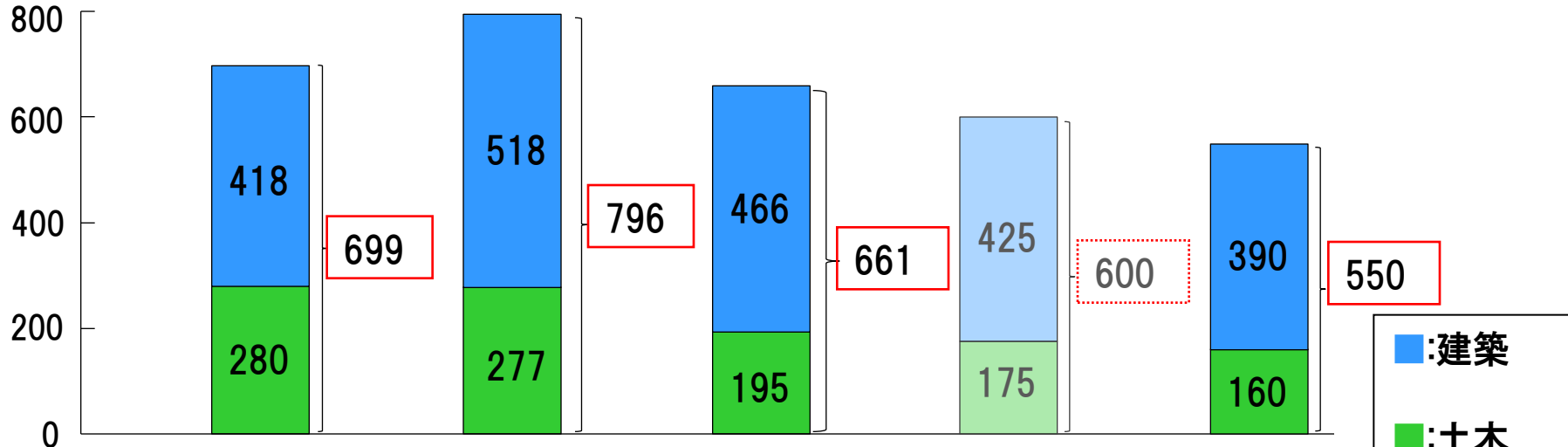
# 【連結】通期受注高の見通し



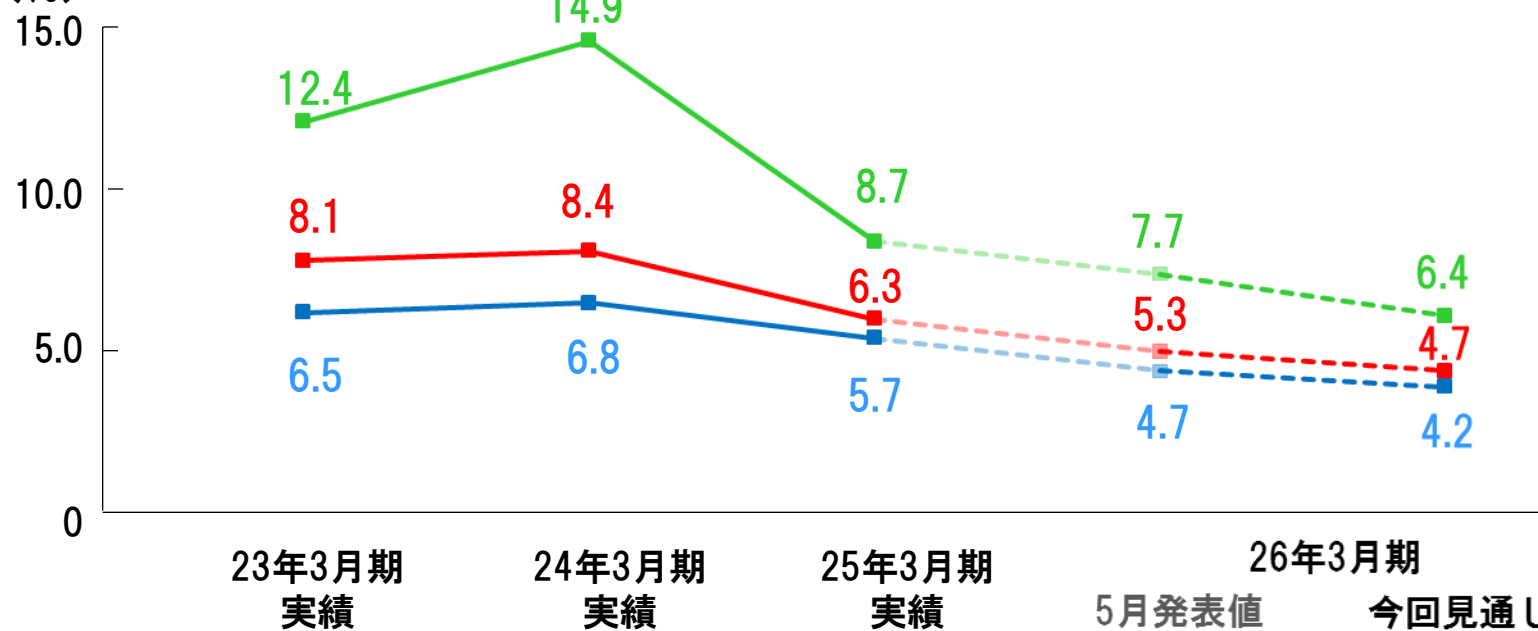


# 【個別】完成工事総利益の推移

(億円) 【完成工事総利益の額】



(%) 【工事利益率】



# 「中期経営計画'12」の進捗状況



時をつくる ところで創る

大林組

# 中期経営計画'12 | 通期業績見通し(個別) |

単位:億円 (利益率%)

	20年度 実績	21年度 実績	22年度 実績	23年度 実績	24年度 実績	25年度		
						見通し	前年度増減	
総売上高	13,173	10,576	9,092	9,636	10,851	11,930	1,078	
建設事業	12,887	10,372	8,658	9,430	10,503	11,700	1,196	
建築	9,356	7,907	6,399	7,564	8,254	9,200	945	
土木	3,531	2,464	2,259	1,866	2,249	2,500	250	
						5月14日 発表値	11月12日 発表値	
工事総利益	621 (4.8)	-91 (-0.9)	699 (8.1)	796 (8.4)	661 (6.3)	600 (5.3)	550 (4.7)	-111 (-1.6)
建築	477 (5.1)	429 (5.4)	418 (6.5)	518 (6.8)	466 (5.7)	425 (4.7)	390 (4.2)	-76 (-1.5)
土木	144 (4.1)	-521 (-21.1)	280 (12.4)	277 (14.9)	195 (8.7)	175 (7.7)	160 (6.4)	-35 (-2.3)
営業利益	128 (1.0)	-700 (-6.6)	198 (2.2)	220 (2.3)	142 (1.3)	80 (0.7)	20 (0.2)	-122 (-1.1)

# 中期経営計画 '12 | 通期業績見通し(連結) |

単位:億円

	24年度 実績	25年度見通し		26年度 当初計画
		5月14日 発表値	11月12日 発表値	
<b>総売上高</b>	14,483	15,000	16,000	15,000
建設事業売上高	13,431	14,100	15,100	14,000
<b>国内</b>	82%	81%	81%	80%
<b>海外</b>	18%	19%	19%	20%
開発事業等	1,050	890	890	900
新規事業	0	10	10	100
<b>営業利益</b> (利益率)	351 2.4%	(連結) 260 1.7% (単体) 80 0.7%	(連結) 240 1.5% (単体) 20 0.2%	450 3.0%
<b>国内建設</b>	55%	58%	48%	60%
<b>国内建設以外</b> (海外建設、開発、新規事業)	45%	42%	52%	40%

## 中長期的展望

### 建設事業売上高



### 300億円以上

### 営業利益



## ■市場の状況

### ◇国内建設投資は、昨年度に引き続き増加

(単位:兆円)

(一財)建設経済研究所 (H25.10.21公表)	H23	H24	H25年度		H26年度	
	(見込み)	(見通し)	(見通し)	増減率	(見通し)	増減率
<b>建設投資</b>	41.89	44.90	48.98	9.1%	47.85	-2.3%
(うち)民間非住宅建築	6.96	7.11	7.72	8.6%	8.27	7.1%
(うち)民間土木投資	4.34	4.95	5.27	6.5%	5.45	3.4%
(うち)政府土木投資	15.07	16.53	18.04	9.1%	16.82	-6.8%

◇建設受注は活況

◇技能労働者不足は拡大

◇労務単価は依然上昇

さらなる繁忙状態へ

## ■事業環境の変化による当社の新たな課題

●計画的な生産力の向上

●生産力を考慮した適正な受注

## ■基幹分野としての収益力強化

### ◇計画的な受注活動を展開

【上期国内受注高】

前年同期比:約1,050億円増(3割増)

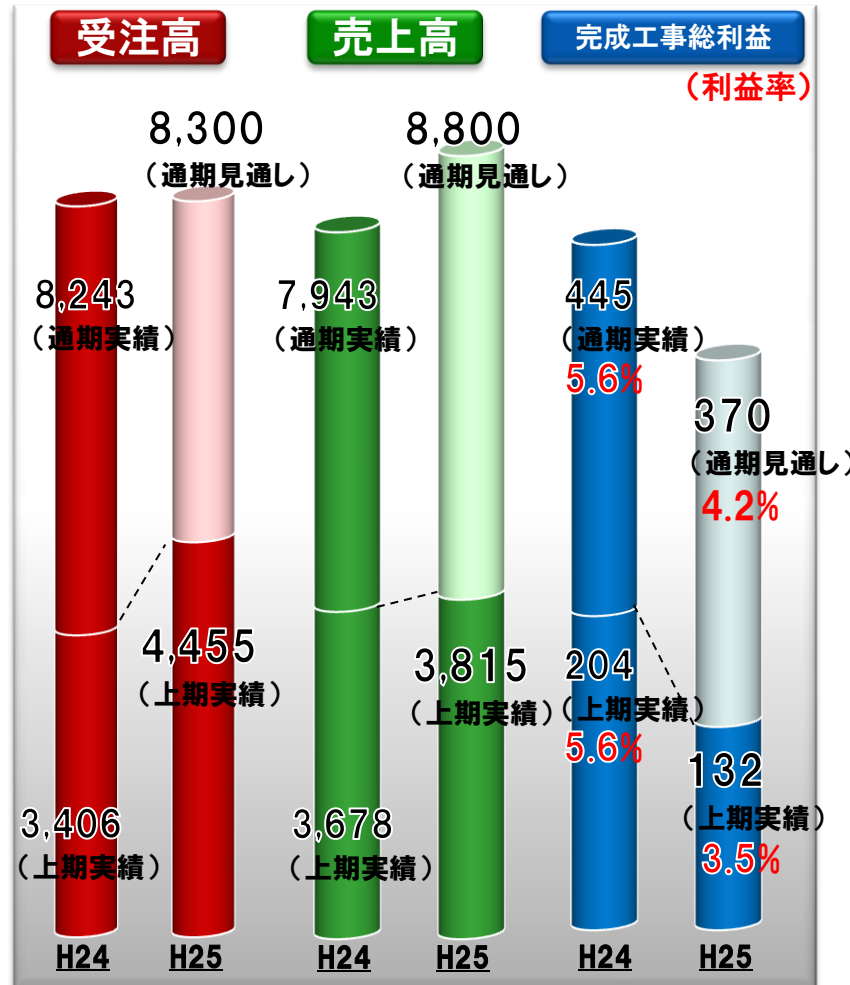
- 生産力を考慮し、通期では前年度並みの計画とした

さらに

### ◇生産力向上策の実施

- 施工省力化技術の開発
- ICT活用による生産効率の改善
- 協力会社との連携強化による労働力確保

### 【単体/国内建築 業績推移】(単位:億円)



## ■防災、減災を含む安全・安心のための社会インフラ整備への取組み強化

### 【復旧・復興まちづくりへの取組み】

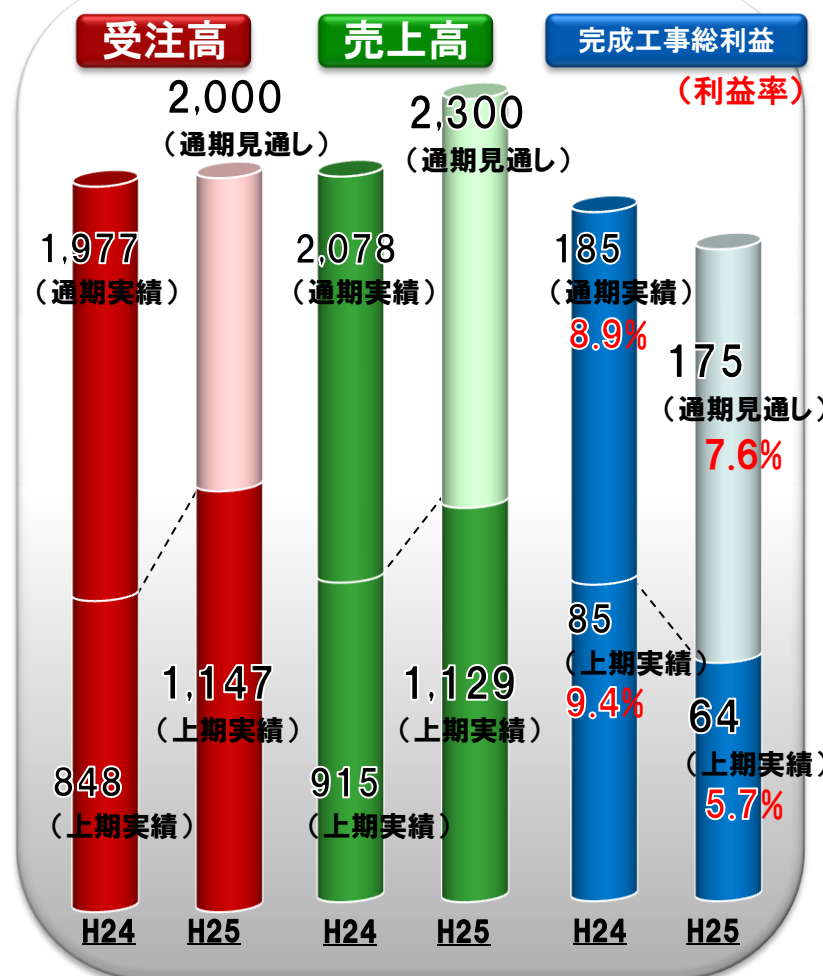
### 【単体/国内土木 業績推移】 (単位:億円)

高台移転に向けた土地区画整備事業などを受託



**CMr**として、工事の施工に係る調整、設計や施工方法の提案、施工に関するマネジメントを実施

引き続き、除染・がれき処理・まちづくりなどの復旧・復興事業に貢献する



## ■ 賃貸事業(ストックビジネス)を主とする安定的収益基盤の拡充

グループ一体として  
取り組む

- ◇ 大林組
- ◇ 大林不動産
- ◇ 新星和不動産

**売上総利益目標**

(平成26年度)

**120億円**

(平成23年度比 60%増)

**投資計画**

(平成24~26年度 合計)

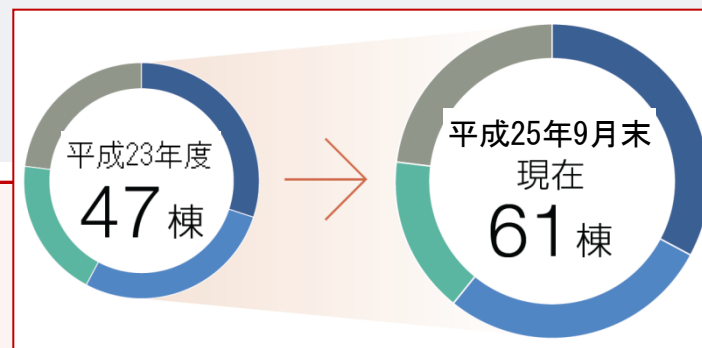
**600億円**

引き続き、計画どおりに賃貸事業不動産への投資を実施

- ◆ 既存物件の**建替・バリューアップ**
- ◆ 賃貸オフィスビルの**新規取得**
- ◆ 保有土地の**有効活用**

### 賃貸オフィスビル 棟数の推移

- 東京都心5区(千代田区、中央区、港区、新宿区、渋谷区)
- 東京(墨田区、豊島区ほか)
- 大阪
- 地方主要都市(札幌、仙台、名古屋ほか)



14棟(30%)

20棟(33%)

13棟(28%)

17棟(28%)

9棟(19%)

10棟(16%)

11棟(23%)

14棟(23%)

(%は地域別比率)



## 海外へのさらなる戦略的展開

### 3拠点を中心とした取組み

#### ◇アジア

－ タイ大林、ジャヤ大林、大林ベトナムが堅調

#### ◇北米

－ ウェブコーが復調、ケナイダンは堅調

#### ◇中東

－ 現地パートナーと協働し、受注を進める

#### 連結海外受注高

#### 連結海外売上高

平成24年度実績

2,500億円 (18%)

2,366億円 (18%)

平成25年度見通し

3,600億円 (24%)

2,880億円 (19%)

平成26年度計画

20%以上

(%は建設事業に占める比率)

### オフィア・ロチャール複合施設新築工事



【施工場所】  
シンガポール中心部  
【工事概要】  
延床面積約17万㎡  
ホテル・事務所施設棟 地上39階  
住宅施設棟 地上50階

### ムシエレブ ダウンタウンドーハプロジェクト 第3期工事



【施工場所】  
カタール国ドーハ市  
【工事概要】  
建物14棟  
延床面積約31万㎡

## ビジネス・イノベーション 利益を創出する技術

### ■大林クリーンエネルギーによる太陽光発電事業

◇事業化決定案件 発電規模:約100MW (21件)  
うち、発電開始済 発電規模:約 21MW (11件)  
(平成25年10月末)

◇平成25年度末目標

発電規模:約**100MW**

売上規模:約40億(100MWを同年稼働した場合)

◇将来的には、風力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーによる発電も視野に入れ事業展開



### ■人工光型植物工場の開発

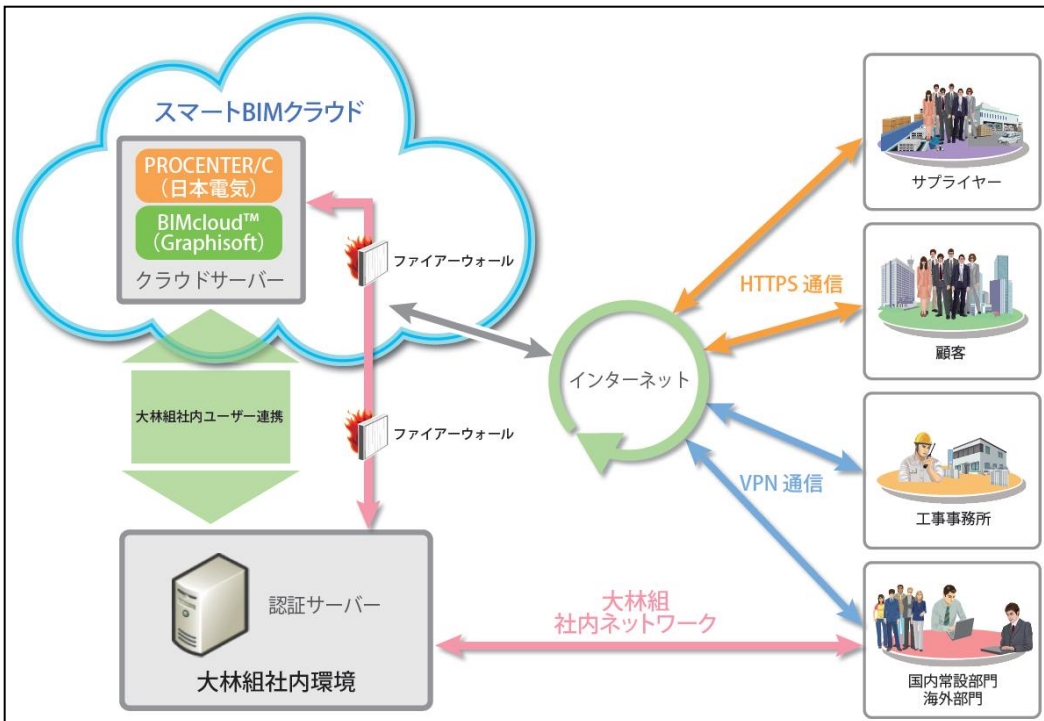
◇省エネ・低コストの人工光型植物工場の開発を開始するなど、農業分野での事業化を検討



## ◇ スマートBIMクラウドを構築

- 大量データを安全かつ効率的に情報共有
- プロジェクトのあらゆる過程で常に最新の建物モデルを活用

早期合意形成を促進し、円滑な工事の進行と品質の確保を実現



## ◇ 省力化工法の開発・適用

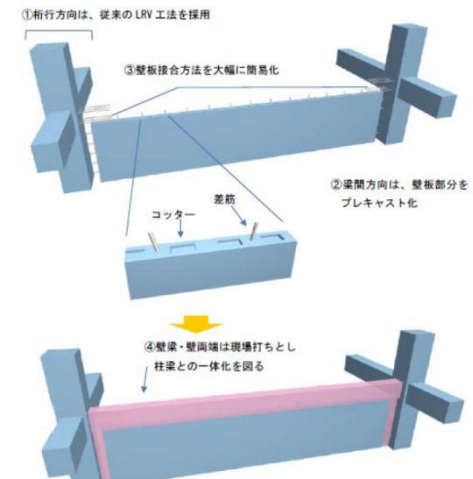
### ● 「梁底PCa工法」

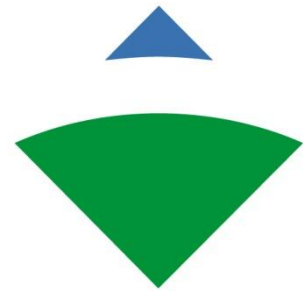
- 在来工法とコスト同等で大幅な短工期・省力化を実現



### ● プレキャスト工法「LRV-W工法」

- 連層耐震壁簡易接合工法を併用し、躯体工事の工期を最大50%短縮





**OBAYASHI**